

## 計画目標の設定、具体的な施策事業の検討に向けた幹事会開催報告

### 1) 開催概要

開催日：2019年10月2日（水）10：00～12：00

開催場所：糸満市役所3階会議室

参加者：末尾参加名簿参照

### 2) 協議のポイント

#### 報告事項（1）市の公共交通の現状と周辺市町村の動向

- 路線バスもタクシーも乗務員不足による大幅な減便等の公共交通サービスの低下により、県民生活に影響が出ている。
- 真栄里地区に計画している公共交通ターミナルを起点に、那覇と結ぶ公共交通の必要性を議論する必要がある。

#### 報告事項（2）これまでの公共交通施策と現在と将来ネットワーク

- 復帰時からの流れにより、公共交通網の整備を民間に任せてしまったことで地域戦略との一体性が無い。そのことが、路線バス利用者の減少、減便、さらなる利用者減という負のスパイラルを招いている一因ではないか。
- 市では、南部地区で連携して、将来の交通網を整備する取り組みを始めている。
- 都市計画の考え方と整合性のとれた公共交通にしてほしい。
- 移動需要型では持続可能性に問題があり将来的にはまちづくりと一体的に移動を集約していく必要がある。
- 真栄里地区の新ターミナルには人が集まる機能を持たせるべきである。
- 交通施策は短期・中期・長期に分けて考えるべきである。
- いとちゃん mini は予約を断る状況が出ているが、これも移動需要の分散により乗合効率が悪いことが理由の一つである。

#### その他

- 路線バスへの補助額が上昇しているが、少ないとはいえ利用者はいるので簡単には、路線を減らすこと難しい。
- 以前は、各拠点集落に JA があり、人を集める機能を果たしていたが、JA がなくなったことで拠点集落に人が集まらなくなった。
- 新興市街地だけでなく、既成市街地を活性化するためにも、公共交通で人の流れを誘導する。
- 地域公共交通を継続していくためには、企業との協力も不可欠である。

### 3) 議事録

#### 報告事項 (1) 市の公共交通の現状と周辺市町村の動向

- 【島田幹事長】富山市は、コンパクトシティの代表格で、人口 40 万都市なので広い都市であるが、その公共交通網の作り方は 15 年かかっており、考え方が参考になる。
- 【兼城委員】説明の中でバス乗務員不足の話題が出てきたが、タクシーも運転手不足と最近聞いている。このような情報は何か聞いてないのか。
- 【事務局】今回データ整理しているのは大型二種免許保有者についてであるが、やはり二種免許の方の高齢化も社会問題として出てきている。
- 【事務局】市でも市内のタクシー業者に聴き取りを行ったが、車両はあるが運転手がいないので車を遊ばせている状態ということである。割合にして、約 50%しか保有車両を稼働させていないという事業者もあった。
- 【事務局】県内のタクシー稼働率は 34.8%とのデータがある。100 台あたり約 35 台の稼働である。
- 【玉城 勲委員】第 5 次沖縄観光振興基本計画において、観光客の路線バス、タクシー利用者が増えていることが報告されている。以前は団体で観光バスが多かったが、個人のお客さんが増えている。
- 特に路線バスを移動手段とする観光客は 2010 年度の 8.4%から 2015 年度には 13.8%へ倍近く増えている。
- なお、タクシー利用も増加傾向にある。高齢化により路線バスやタクシー乗務員が減っていくと、観光客 1,000 万人目標を掲げているにもかかわらず、観光客の移動手段が無くなってしまう。
- 【島田幹事長】観光客の客層が個人客になっているのは想像できる。海外からの旅行者 300 万人も主な移動手段として、公共交通を使っている。
- 【玉城 勲委員】平成 27 年、28 年度に試験運行していた空港直行便のいとちゃんバスについても 60%は日帰りで帰るといふ観光客が多かった。40%がサザンビーチやホテルへの利用者であった。よって、観光客が如何に公共交通を頼っているかということである。
- 【島田幹事長】いとちゃんバスは、那覇空港で時間に余裕がある観光客のニーズがあった。
- 私の母校のコザ高校では、夜のバスが減便になったことで、定時制のクラスの時間割を変更して対応する等、深刻な問題が起きている。
- 【事務局】先程、雇用創出という話があったが、糸満市は人口も増えているし、真栄里の市街地の南方 50 ヘクタールぐらいの工業団地を作ろうということで、市街地拡大の方向に動いている状況である。
- 今後は、那覇と糸満を結ぶ公共交通が非常に大事なのではと考える。最終的には真栄里のターミナルを起点として、市内の循環線を回せていけないか、構想を持っている。この幹事会でこの辺の提案をしてもらいたい。

#### 報告事項 (2) これまでの公共交通施策と現在と将来ネットワーク

- 【島田幹事長】専門家に聞いたが、戦後沖縄の公共交通はバスが主体になっていくわけであるが、他府県のように県営バスや市営バス等、公共のバスが整備できなかったということである。

【事務局】戦後、最初のバスの復興は琉球政府により公営バスから始まっている。その後、しばらくして撤退して民間事業者だけになった。なお、戦前にも公営バスは運行していたが、戦争で全て無くなってしまった。

【島田幹事長】他府県と違い、地域戦略と一緒に公共交通網を構築できなかったというのが課題と考えられる。なお、15年前にモノレールが運行開始される時にも公営バスの議論があったが実現に至らなかった。

本土復帰当時と比べると、路線バスの利用者は7割減っており、移動手段はプライベート空間が確保できる車の方に移行してきた。これからはもっと悪いスパイラルが始まると予想される。運転手が不足し、便が減り、バスの利用者が減るといった状況に陥ってしまう。

実際、移動手段をバスに頼らざるを得ない方のみがバスを利用しているのではないか。選択肢のある人は車で移動したり、他の移動手段を用いているのではないかと考えられる。

県が推進している基幹急行バスは、那覇から出発してコザまで60分で走らせることを目指している。

また、モノレールの延伸で開業したてだこ浦西駅付近に、4年遅れで沖縄自動車道のインター開通が予定されていると聞く。てだこ浦西には2,000台の駐車スペースがある。

以上のような動向や沖縄全体の幹線とのつながりを見据えて、糸満市は検討しているか。

【事務局】島尻地域振興開発推進協議会という組織があるが、平成30年度からA軸が那覇市、豊見城市、糸満市、B軸が那覇市、南風原町、八重瀬町、与那原町、南城市、西原町で軌道系機関となる将来の公共交通システムを構築しようという形で話進めている。

この組織には、那覇市、浦添市、西原町が入っていないため、もう一つ上の組織である南部広域圏市町村組合等へ、公共交通の将来について調査研究しようという要請をした。現在、研究課題ということで取り上げられ、那覇市を含めて調査研究を進めているところである。

また、島尻地域振興開発推進協議会では、A軸の3市、那覇市、豊見城市、糸満市を含めて議論している。将来、那覇市からどういったコースで糸満市の方に新しい公共システムを構築しようかと検討している。豊見城市と糸満市で検討しているのが、県道7号線、バイパスの方を通過して、名嘉地から糸満市の県道256号線（旧国道331号）を通過して、真栄里の新交通ターミナルまでつなげるという案である。

交通モードはモノレールを想定しているが、県の試算では、費用対効果が糸満市は0.18しかないという厳しい数字が出ている。しかし、県の試算した数字は、これからの街づくり計画等が考慮されていないため、今後、県とも情報交換をしながら、新たな公共システムを構築するために議論を深めていこうと考えている。

【事務局】資料の28頁に今後の公共交通方向性とあるが、これは現在、県と内閣府が調査しているもの。県の検討では、小型鉄道で那覇から名護までのB/Cは0.59。内閣府の検討したスマートトレインだと、糸満から名護までのB/Cは0.69。内閣府が作ったものは糸満から名護にもっていくとまだ採算性があるとされている。

【事務局】那覇、沖縄市、名護と見たときに、沖縄市から名護間と見た時よりも、那覇から糸満の方が事業採算性には高いとよく言われている。

【事務局】市長も公共交通軸の糸満への延伸について県と調整をしている。

【島田幹事長】この議論で表に出していくと繋がると考えられるため、声に出していく。それにより、軸の形を作る。もう一つとして、街全体のマスタープランの連携について議論したい。賀数課長少しお話しできないか。

【賀数委員】糸満の都市計画で今課題になっているのは、拠点集落を作ってそこに既存の小さな集落とどう連結していくかである。恐らく交通手段はバス、タクシーが主体になると思うが、それをどういう風に組み込んでいくのかというのが課題である。都市計画を検討する上で、公共交通網はどうなっていくかを見据えることは重要である。

【兼城委員】資料の17頁はいとちゃんminiの需要の様であるが、路線バスのルートとは異なる。道の駅等がルートに入っていないので意味が無いが、この辺は今後の方向性のものと繋がっているのか気になる。需要は路線バスがカバーするような形になっているのか。

【事務局】これまでの公共交通施策は、「需要対応型の公共交通」を検討してきた。人の動きや移動ニーズに合わせて、端的に公共交通を整備していくというのがこれまでのスタイルだった。みんなあそこに行きたいから、その方向のバス作ろうと。

しかし、そのニーズがばらついてきたときに問題が生じる。但し、糸満でデマンド交通を入れた理由が、県が平成18年に実施したパーソントリップ調査において糸満市の市民の動きを見る限り、糸満市内の方々は南部の1日の移動はかなり少なかった。移動したとしても、あちこちばらつき、みんなが行きたい所が一つに定まっていなかった状況であった。

バラバラの動きをしている中で、路線バスというのが利用されずに衰退していったという実態があった。それに対して、ばらついているニーズにどう対応していくかという時に一番適していたのがデマンド交通に踏み切った。

しかし、今後需要対応型でやっていくと、いとちゃんminiの財政負担が大変といっている中で、さらに台数を増やすのも厳しい状況であり、次なる策は公共交通網形成計画であったり、立地適正化計画である。生活拠点や居住地を集約することで、人の流れを逆にデザインすることができる。

定められた拠点に集まれば、ある程度市民の生活が事足りるという場所をどこまで集約できるか。人のニーズ、移動ニーズが集約されていくと路線バスが成り立つようになっていく。だからこそ、街づくりと一体となって考えないと、路線バスは成り立たないと思う。

【島田幹事長】その通りである。だからこそ、都市計画と併せて公共交通網形成計画を検討することが需要である。

【事務局】糸満市の公共交通の計画で、今後最も目玉となるのは、真栄里に予定されている新しいバスターミナルである。そこに市民が行きたいと思える機能を集約できれば、市民が集い、さらに、新たなバスターミナルが交通結節点として機能することになる。

【事務局】糸満市の方向性としては、事務局説明のとおりである。なお、真栄里の新交通ターミナルが完成するまでに、短くても5年程度はかかる見込みである。そのため、段階的な交通手段の整備として、短期的な内容も検討する必要がある。

なお、いとちゃんminiの利用状況において、交通弱者や公共交通空白地帯の方が予約の取れない状況が出ているという報告もあったが、いとちゃんminiはこのままの運行内容で良いのか検討が必要となる。また、路線バスについて、採算の取れるライン等を判断できるように、赤字路線の詳細（便数毎の乗車人数等）について示して欲しい。

【上原一志委員】路線バスの乗車人数については、一日当たり何人乗車しているのかというデータは公表されているのではないかと。

【事務局】毎年、バス対策会議において、赤字路線のデータは公表されている。

【上原一志委員】毎年、補助金の申請時に赤字路線のデータを見ているが、赤字路線については空気を運んでいるような状況である。さらに、路線の減便により利便性が低下し、バス離れに拍車をかけているのではと考えられる。交通弱者の方々の要望等により、赤字路線の維持が求められるがバス利用者が増えることが無い状況であるため、その課題について考える必要がある。

なお、交通施策を短期・中期・長期で考えるにあたり、交通弱者の方々に対しては、中期・長期の計画も重要であるが、短期的な視点で直ぐにできることは何かなのか、本幹事会で議論できれば良いのではと思う。

【島田幹事長】短期・中期・長期の視点で計画を構成できるようにして行きたい。また、いとちゃん mini の利用予約がなかなか取れない理由について教えてほしい。

【玉城勲委員】いとちゃん mini は午前 8 時 30 分に予約を開始して、9 時から運行しており、最も利用者の多い時間帯はお昼頃である。この時間帯に利用者が集中することで、予約が取りづらく、お断りをしている状況となっている。

【事務局】本来、いとちゃん mini は交通弱者等の交通手段を確保するために運行しているが、交通弱者以外のタクシーを利用できる方等もいとちゃん mini を利用している可能性がある。

【上原一志委員】民間タクシー事業者がいるが、タクシーの代わりにいとちゃん mini が利用されていることは好ましい事ではない。また、路線バスの通っている路線においても、路線バスには乗車せずに自動車学校や南部病院のバスを利用する方もいるため、民間の事業圧迫になってしまっているのではないかと。

【事務局】いとちゃん mini の予約お断りが発生している状況について補足する。いとちゃん mini の予約において行先が分散して、少人数での運行となり、なかなか乗合ができていないということも理由として挙げられる。移動の集約化を行わなければこの状況の解消も難しいのではないかと考える。

【島田幹事長】この点については、工夫の余地がまだあるのではと思う。

【玉城勲委員】いとちゃん mini の運営側の課題として、乗務員の労働条件で休憩時間が定められており、システムで運行を割り振るにあたり、タイミングによっては予約が入っても休憩時間と重なるため、予約を断って休憩を入れることがある。

## その他

【島田幹事長】次の地域公共交通会議の日程は何日であるか。また、その会議ではどのような議論を行うのか。

【事務局】11月19日である。網形成計画の前段階として、市民アンケートや観光客ヒアリング等、各種ニーズ調査を実施してきたため、その実施結果の報告し、糸満市における公共交通に関する課題及び、課題解決にむけた考え方について審議する予定である。

【島田幹事長】本幹事会での議論を地域公共交通会議で報告し、今後の検討に反映させて行きたい。なお、本日の幹事会はこれまでの糸満市における公共交通の取り組みや現状を共有することを目的としている。本日の議論を踏まえて、それぞれの立場で一言ずつ発言をお願いしたい。

- 【上原一志委員】企業側も通勤手段として公共交通を利用するメリット（健康面や環境面等）があるため、如何に公共交通を利用してもらえるかについては、今後のネットワーク作りや利用促進等を中長期的に考えて行ければと思う。また、現状として、工業団地に乗り入れる路線バスが無いため、工業団地で勤めている方は自動車やバイクで通勤している。そのため、違法駐車も増えてきていることが課題としてある。
- 【島田幹事長】お互いに協力して公共交通の課題解決への取り組みが必要と思う。
- 【事務局】企業側からバス運行の要望はあるのか。仮に、糸満市が通勤バスとしてバスを運行した場合、企業側から多少なりとも協賛として出資が可能であるか。
- 【上原一志委員】特に要望は出ていないが、可能性はあると思う。なお、工業団地の課題として、警察より周辺道路における違法駐車を注意されたり、取り締まりされたりということが現状としてあるため、企業側が従業員に対してどのように対応するかという点では可能性も考えられると思う。
- 【玉城和江委員】糸満市の公共交通のあり方として、現状の需要対応型から、集落拠点に機能を集約し、高齢者が公共交通を利用しやすい環境をつくれれば良いと思っている。
- 【島袋委員】交通施策を短期・中期・長期で検討するにあたり、障がい者や高齢者、生活困窮者市民の移動手段確保に結び付けるためにも生活に係る公共交通と観光に係る公共交通を分けて考える必要があると思う。
- 【島田幹事長】網形成計画を策定する上では重要な視点である。
- 【山内委員】障がい者割引を適用して、いとちゃん mini を利用している方は全体の2割程度いることから、障がい者の交通手段として大いに利用されていると思う。
- そのため、いとちゃん mini を運行しながら拠点集落へ移動する流れが形成できれば、障がい者の利用もより促進される。このような視点を持って、交通施策も検討して頂きたい。
- 【金城委員】拠点間の移動について子供や高齢者が動きやすいシステムを考える必要があると思う。例えば、子供の学校への通学は親の自動車送迎が主体であるため、親の負担を減らすことに繋がれば良いと思う。
- 【上原副幹事長】網形成計画の策定と共に、いとちゃん mini の運用についても今後1年半、どのように実施して行くか議論が必要となっている。いとちゃん mini が高齢者や障がい者等、本当に利用して頂きたい方に利用されているのかを検証するためにも、予約が断られた方の属性の把握も必要である。
- 【事務局】いとちゃん mini の高齢者等の利用率は確認できているが、予約が断られた方の属性分析はまだできていない。
- 【上原副幹事長】また、路線バスへの補助金についても右肩上がりに上昇していることが課題となっている。路線バスへの補助金の減額は急にはできないが、市民が公共交通を利用しやすい拠点を整備できれば費用対効果も期待できるのではないかと考える。
- 【島田幹事長】いとちゃん mini の現在のステージでの運行は、来年度いっぱいであるのか。
- 【上原副幹事長】令和2年度までであるため、今年度には次の方向性を決めて、次年度の初めには予算関係について議論して行かなければならないと考えている。いとちゃん mini の車両も老朽化しており買い替えには500～600万円/台かかる見込みであることから、いとちゃん mini の方向性についてみんなで考えて行ければと思う。

【玉城勲委員】以前は各拠点集落にJAがあったため、地域住民が拠点集落に自然に集まっていたが、現在はJAが無くなってしまったため、地域住民の移動がバラバラになってしまっている。

なお、観光客の移動については、道の駅を拠点として喜屋武岬等の観光地へ出向いている。よって、市民の移動についても人が集まる拠点となる施設を整備して、移動軸へ導くように考えてはどうかと思う。

現状の施設配置として、拠点集落に人が集まるのは難しいのではないかと思うため、逆に人の集まる施設として、サンエー潮崎シティやカインズ、道の駅等を中心と考えるかどうか。

【兼城委員】玉城委員が言うように、ニーズがある場所を中心とすることは必要であると考え。また、高齢者の自動車運転に関する事故が全国的に多く発生しているが、高齢になっても自動車を運転する理由として、移動が不便であることが挙げられるため、公共交通で移動の利便性を向上させられるような計画を立てられると良いと考える。

【賀数委員】県内で立地適正化計画を策定している自治体は少ない状況であるが、立地適正化計画を策定する上で、地域の交通戦略が欠かせないと言える。また、糸満市は新興市街地と既成市街地からなるが、既成市街地には旧糸満文化が根強く残っている。その既成市街地を活性化するためにも公共交通で人の流れを誘導することが課題である。

なお、都市計画課のミッションとして公設市場や漁港周辺の既成市街地の活性化をどのように実施するかという検討で、再整備の方法としてミニ交通結節点が必要であるという議論がある。網形成計画におけるメインの交通結節点は新交通ターミナルであるが、ミニ交通結節点も交通網の中に位置付けられるのか議論して頂きたい。

【島田幹事長】本内容は都市計画に準ずるものであると考えているため、この幹事会で議論して行きたいと思う。

【事務局】将来の公共交通については、人の動きがバラバラでは無く、集約化するような仕組みが必要である。そのため、市では老朽化した公共施設の集約化を検討している。多少時間はかかると思うが、集約化することで公共交通が成り立つのではないかと考えている。

また、今回の網形成計画策定の目的が持続可能な公共交通ということであるため、現状の公共交通で良いのか議論を掘り下げてほしい。今後の公共交通のあり方をみんなでも議論させて頂きたい。

【島田幹事長】いとちゃんmini導入時の議論として、路線バス事業者への補助額とリンクしていたと思うが、結果、どのようになっているのか。

【上原副幹事長】トータルとしては、糸満市の公共交通への支出額は落ちていない。赤字補助額は年々増加しているため、いとちゃんmini導入時より補助額は増えていることから、路線バスを再編したことによる赤字補助負担の減少を加味しても、いとちゃんmini導入当初より補助負担が減少しているとは言えない。

【事務局】地域公共交通網形成計画を検討するそもそもの目的として、交通弱者や公共交通空白地帯の解消ということが挙げられる。なお、地域公共交通を継続して行くためには企業との連携も不可欠であり、公共交通を利用して移動した方へ協賛企業からサービス・特典等についても考えて行く必要がある。

また、高齢者の健康増進や医療費抑制の他、子供たちの通学利便性にも繋がる公共交通を整えることができればと思う。必要であれば健康推進課長にも会議に入ってもらい、様々な分野で議論させて頂きたい。

【島田幹事長】地域の公共交通を議論する上では、税金を使用することから、市民への説得力が必要となる。また、網形成計画の策定においては広域的な視点も必要であるため、南部広域の交通計画の動きにも注目する必要がある。その他、戦後処理の影響で、公共交通網整備が進められてこなかったため、課題が大きくなってしまっていると考えられることから、県の上位計画の議論にも注視して行きたいと思う。

【事務局】今回議論された内容は、11月の地域公共交通会議で報告させて頂きたい。また、年明けに第2回の幹事会を開催したいと考えている。

以上



写真：会議開催状況

## 第1回幹事会参加者名簿

糸満市地域公共交通会議委員						別紙-1
		氏名	区分	所属	役職	備考
1	幹事長	島田 勝也	学識経験者	沖縄大学地域研究所	特別研究員	
2	副幹事長	上原 斉	地方公共団体	市民健康部市民生活環境課	課長	
3		玉城 勲	観光関係者	糸満市観光協会	事務局長	
4		島袋 雄文	福祉関係者	糸満市社会福祉協議会	事務局長	
5		上原 一志	産業関係者	糸満市商工会	事務局長	
6		玉城 和枝	地方公共団体	糸満市福祉部介護長寿化	課長	
7		山内 昌直	地方公共団体	糸満市社会福祉部社会福祉課	課長	
8		賀数 康広	地方公共団体	糸満市建設部都市計画課	課長	
9		兼城 浩康	地方公共団体	糸満市経済観光部商工観光課	課長	
10		金城 秀	地方公共団体	糸満市教育委員会総務部総務課	課長	

## 事務局

1	徳元 弘明	糸満市企画開発部 部長
2	新垣 行則	糸満市企画開発部 政策推進課 課長
3	大嶺 哲也	糸満市企画開発部 政策推進課 係長
4	新垣 祐滋	糸満市企画開発部 政策推進課
5	上間 淳也	沖縄しまたて協会
6	豊里 博輝	沖縄しまたて協会
7	仲宗根 安弘	沖縄しまたて協会
	計7名	

## 傍聴人

1	當銘 由也	糸満市市民健康部 市民生活環境課 係長
	計1名	